

設計演習 II

06 1. 木造住宅トレース 2. 住宅設計

開講年次：学部2回生 後期

【担当教員】

山崎寿一（教授）近藤民代（准教授）西野智研（助教）

島田陽（島田陽建築設計事務所）、山隈直人（kt一級建築士事務所）

[Teaching Assistant(修士1年)]

本条礼香（A61）横山泰（A61）西田翔（A61）

内に開く家

塚越仁貴

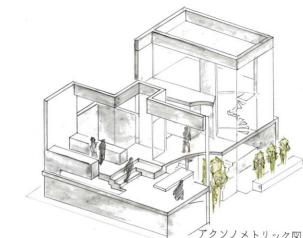
食を中心として家族が暖かく繋がるような室内配置と植栽計画を施した。

家族空間と個人空間とをテラスで行き来することで日常に緑と風に触れる機会を与える。

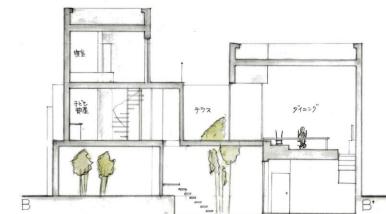
数段降りて行きながら住宅内へとアプローチする半屋外空間の階段は目前の公園、歩道の余計な脇やかさを淘汰する。



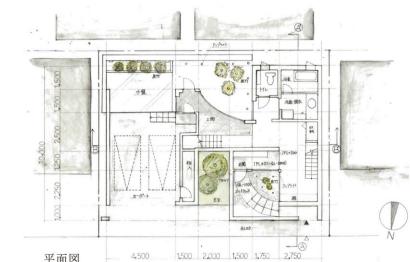
外観ベース



アクソノメトリック



断面図



平面図

RHYTHM

藤本奈美

音楽を通じて人々が繋がる住宅を計画した。

同じ大きさの正方形を縦横にずらしながら重ねることで空間を構成している。

このような箱のずれが建築そのものに音楽の持つリズム感を与える。

内部は扉を持たないため、音は住宅全体に広がる。また、スリット状の窓は外から人の気配を感じさせる。

【住宅課題2：将来の私の住宅】

自分が40歳になったときに住む独立住宅を設計する。

居住者構成やライフスタイルは設計条件として具体的に設定する。

■居住者構成とライフスタイル等の基本要件

自分が40歳のときに新築する独立住宅。

居住者構成、居住者のライフスタイル、住宅設計の基本条件は各自で設定すること。単身や親族以外の同居も可とする。居住者構成ヒアスタイルに応じた空間構成や周辺環境を活かした設計を行う。

■敷地：別紙に示す敷地I・IIから選ぶ。敷地調査は各自で進める。敷地Iは指定の区域から1つの敷地を選定。

■構造・階数

自由に想定してよい。

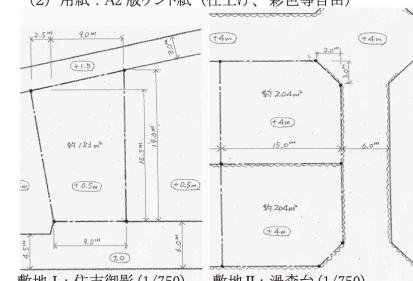
■要所室等

新たな暮らしへの提案も含むものが望ましい。

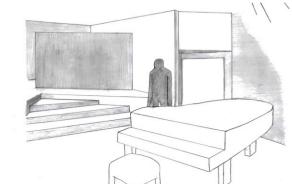
将来の居住者構成及びライフスタイルを想定して、創造的な住空間を構成すること。仕事場、アトリエや趣味の空間、二世帯住宅などを計画してもよい。喫茶店や文化サロン等を併設した併用住宅も可。

■提出物・用紙

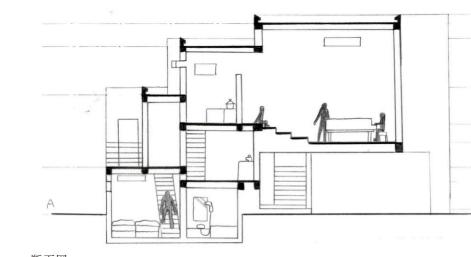
- (1) 所用図面
- ①配置図兼1階平面図 1:100
- ②各階平面図 1:100
- ③立面図 1:100
- ④断面図 1:100
- ⑤模型写真（外観スケッチ、透視図でもよい）
- ⑥設計主旨・面積表
- (2) 用紙: A2版ケント紙（仕上げ、彩色等自由）



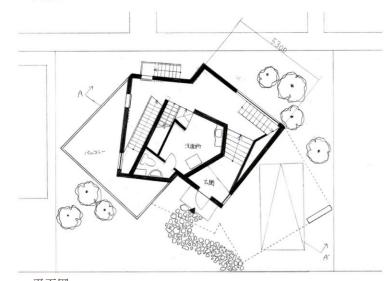
外観ベース



内観ベース



断面図

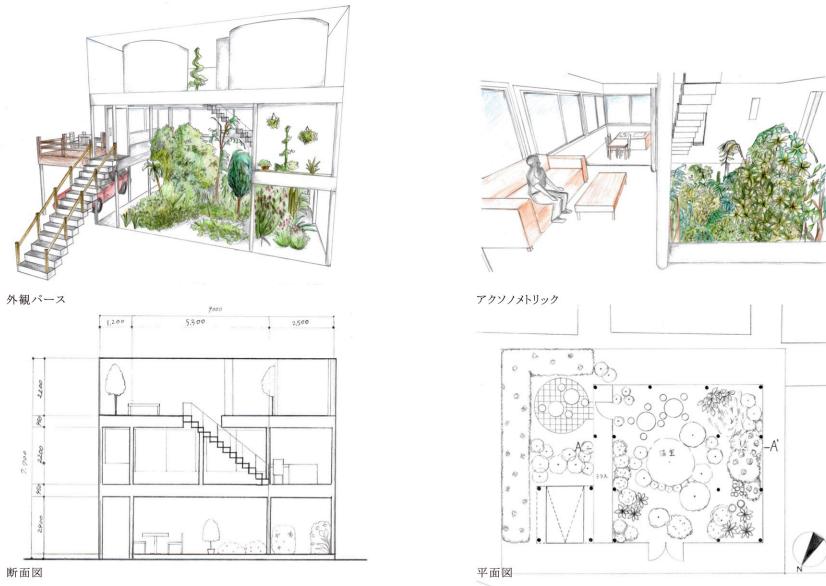


平面図

温室の家

前野優花

この温室の家に住むのは植物関係の研究をする両親と子供二人の四人家族。いつでも植物が目に入りまるで温室の中で生活しているような感覚で暮らしている。温室は日中近隣の人々にも開放し、日々の喧噪から離れゆったりとした時間を過ごしたり普段見られない植物の生長を見て触れて学ぶ場となる。



NEKOIE

馬場知美

都会に、田舎の「猫屋敷」の良さを取り入れる。

80歳のおばあちゃんとその息子夫婦の3人暮らしの六甲にある住宅。猫を介して昼は外との、夜は内との繋がりを強くする。

住宅の中心には、猫と人間の動線が交わる広い縁側があり、家族の特別な空間である。

